



志水雄一郎 (しみず・ゆういちろう)
慶應 SFC 卒、インテリジェンスにて事業責任者・
統括部長などを歴任した後、東証1部上場企業グ
ループであるウィルグループ/セントメディアへユ
ニット移籍し、NET jinzai bank をスタート。2015年
7月迄は国内最大級の iOS/Android エンジニア育
成スクール「RainbowApps School」運営会社
社外取締役を元 Google 米国本社副社長 兼 日
本法人代表取締役 村上憲郎氏らと兼務。【Japan
Headhunter Awards】(2013・15年)3年連続受
賞、「Headhunter of The Year」(2014・15年)
2年連続受賞。2016年9月、分社化により代表
取締役社長に就任。

『Headhunter of The Year』 2年連続受賞!

業界を席捲するNJの ハイブリッドキャピタル 構想とは?

日本の競争力を引き上げ、
転職者を幸せにする
その仕組みが
今の人材会社にはない

「私たちのビジネスは、世界で勝
てるスタートアップ企業や産業
を日本から生み出し、国として
の競争力に繋げることに。それ以
外取り組むつもりはありません」
そう話す志水氏が率いるNET
Jinzai bank (以下NJ)は「Yahoo!
GREE、GMO、ソフトバン
クなどのインターネット・IoT
Tセクターの管理職出身者を中
心とした20名で構成される、平
均年齢31歳のチームだ。日本を
代表するVCである Golis
Capital Partnersをはじめとした

国内外のVCと提携し、スマー
トニュースやメルカリといった
有力スタートアップ企業を創業
期から支援。有力スタートアッ
プ企業に、45人以上のCXOを
輩出してきた。

現在、日本のGDPは世界3
位。2050年にグッドストー
リーで4位、バッドストーリー
で8位になることが予想されて
いると志水氏。国民の平均年取
は世界で18位。国の経済を強化
しようとするとき、外貨を獲得
できる、時価総額の高いインタ
ーネット・IoT企業を生み出
す政策がグローバルでは一般的
だ。しかし、アメリカや中国で
はスタートアップ企業へのベン
チャー投資が年間5兆円規模な

のに対し、日本は年間1500
億円規模と、世界で勝負できる
スタートアップ企業を育成する
資金提供環境としては非常に脆
弱だ。

また、一般的に人材紹介会社
では(社内の営業予算の達成の
ために)「大量採用かつ選考回数
が少なく、選考難易度が低く、
紹介料率を高く払って頂ける企
業」が支援ターゲットとなり易
い。そんな中、「本来、影響力の
ある人材会社であれば、自らの
サービスを持って、世界で勝て
る可能性のある企業や産業のグ
ロースにコミットし、日本の競
争力の源泉とすることが使命な
のではないかと」と、志水氏は
問題提起する。

SPECIAL FEATURE Startup

エージェントの介在価値が
会社の業績を決める!



YUICHIRO
SHIMIZU

株式会社ネットジンザイバンク
代表取締役社長

志水 雄一郎

東証1部上場ウィルグループ傘下のセ
ントメディアの新規事業として、2013
年4月に設立したNET Jinzai bank。
2016年9月にセントメディアからの会社
簡易分割により、ウィルグループ100%
出資子会社として分社化する。同社が
掲げるテーマは「for Startups」。VC
と提携し、インターネット・IoTセクターを
中心として、日本から世界で勝てるスタ
ートアップ企業の採用支援を行っている。
これから同社が目指す、紹介会社の枠
を超えたハイブリッドキャピタルとは?
社長に就任した志水氏に聞いた。

Interview=Tomomi Watanabe & Fumiko Kusuhara
text=Kazuyuki Koenuma photographs=Kenji Sakurai

IPOやバイアウトによって キャピタルゲインを得る ビジネスモデル

NJは、スタートアップ企業への転職支援だけでなく、起業支援も行う。シードラウンド専門VCと提携し、起業潜在層である優秀な人材との数回のデイスカッションを経た上で起業を促す。そしてVCより1億円

規模のシードラウンド出資を提案し、起業・出資が完了した後、そのスタートアップ企業の採用支援をNJが行うのだ。紹介フリーの形式も、通常とは少々異なる。「例えばバリエーション3億円で1億円のシード投資が決定した場合、オフアール年収1000万円の方の人材紹介フィーと同水準の300万円に充当する発行

株式の1%分のストックオプションを私たちに発行してもらいます。その後、私たちの採用支援を持ってスタートアップ企業が事業成長した結果、IPOやバイアウトされる際に、比較的にリスクが少ない形で私たちが当初付与された株式価値の数十倍のキャピタルゲインを得られる可能性があるのです」日本では年間20〜100社が

IPOしている。発行株式の10〜15%を従業員の一部が保有していることが多く、株式売却の際に数千万〜数十億円単位の利益を得ている従業員も多いという。NJが転職支援している事例の中心は、まさにIPOやバイアウトによって大きな恩恵を受ける可能性のあるキャリアだ。米国や中国では起業してバイアウトを繰り返すリアルアント

レプレナーやPre-IPO企業にCXOとして参画し、Exitにより資産形成できるキャリアがブライトキャリアだと教わり始めている。しかし日本ではそのようなキャリア教育は一般的でないため、転職者が一定期間のコミットメントにより大きなリターンを得られる可能性のあるキャリアを、人材会社はもちろん、個人もよ

「時には気分を変えてオフィスのバルコニーで仕事をすることもありますね」と志水氏。



く知らないのだと志水氏は指摘する。

スタートアップ企業での キャリア形成も 明確にブライトキャリアに なりつつある

NJでは、平均年齢31歳、平均年収800万、インターネット/IoTセクターを中心として日本から世界で勝負できるスタートアップ企業で活躍できる人材に月間500名ほど面談をしているという。「イケてる」キャピタリスト、起業家や個人とコンタクトする、というのが同社の方針だ。

「個人の方にお会いするのは、ブリーチを中心とした外部データベースを使ったり、繋がりのある方々にご紹介を頂いたり、ハッカソンやイベントに参加したりと、あらゆる方法で優秀な人材と会うようになっていますね。単にデスクでスカウトを打つより、その方が私たちのスタイルに合っていますから」

NJの役割は、様々な場面で出会った優秀な人材の背中を押し、起業や世界で勝負できるスタートアップ企業への転職を支援すること。スタートアップ企業でのキャリア形成がグローバルで

は明確にブライトキャリアになりつつある、と志水氏。ただ起業や転職を促すだけでなく、国内有数のビジネススクールであるグロービス経営大学院と組み、人材の能力開発やスキルアップ支援も行っている。

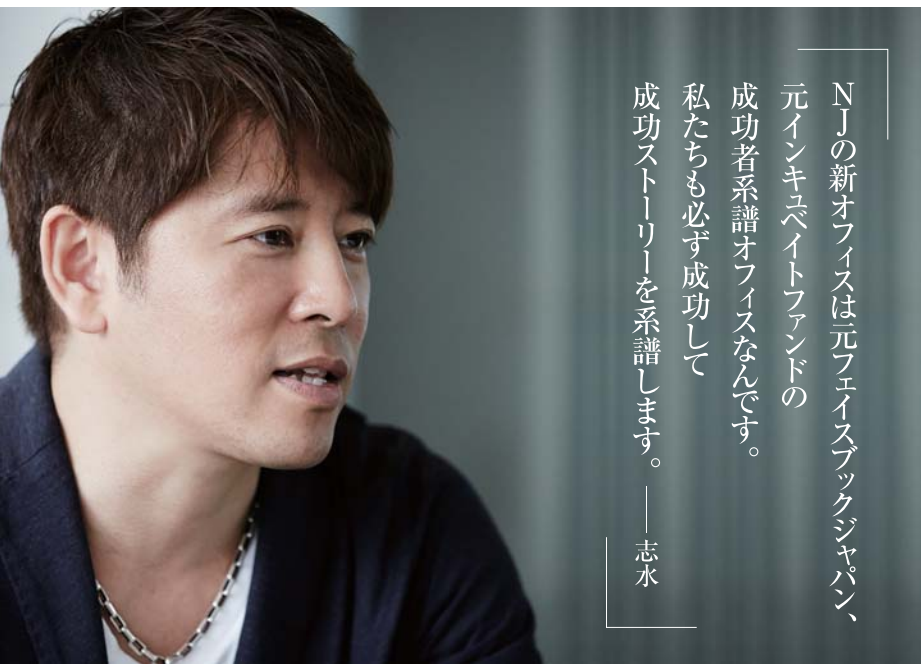
「マッチングだけでは意味がない。その人材が活躍する仕組みを作ることで、結果、企業の事業成長に繋がるかもしれないですから」こういった取り組みなどに

着目し、国内外のVCや産業革新機構などからの提携依頼が後を絶たないという。

今後は ハイブリッドキャピタルとして 人材・投資の両面で スタートアップを支援

NJがセントメディアから分社化したのは、将来的に世界標準であるハイブリッドキャピタルを目指したい、というビジョ

NJの新オフィスは元フェイスブックジャパン、元インキュベイトファンドの
成功者系譜オフィスなんです。
私たちが必ず成功して
成功ストーリーを系譜します。——志水



ンが理由の一つだ。スタートアップ企業を支援するタレントエンジニアエンシーとして、CXOに相應しい人材を探し、VCと一緒にになって事業課題を分析して、組織づくりに深く関わるが、どんなにコミットしても支援先の経営会議には出られない。一方で、投資が伴えば経営会議に参加できる現状がある。それがタレントエンジニアエンシーとVCの立場の違いなのだという。

「自分たちのポジションを変えるためには、お金を入れないと始まらない。経営会議に参加した方から、また聞きで経営支援をするのではなく、重要なデッシュジョンが行われているその場に参加し、人的支援を持って企業をグロースさせる役割へ移行することを目指しています」

日本ではタレントエンジニアエンシー機能をVCが持っていることはまず無いため、これまでNJはVCにとって、タレントエンジニアエンシープラットフォームだった。しかし、Sequoia Capital、Andreessen Horowitzのような世界を代表するVCは、人もお金も投資するハイブリッドキャピタルスタイルが一般的だ。今後はそういったチームを目指すために、ベンチャーキャピタル事業の準備にも取り組むという。

「これまではVCが企業に投資し、そのポートフォリオの優先順位の上位から、私たちがCXOを組んでいました。今後は、NJがファンド組成を行い、有力VCの皆様と共にポートフォリオ優先順位上位の案件に協調投資をしていく予定です。国内外の有力VCとのパートナーシップ、有力スタートアップ企業へのCXO採用を中心とした支援実績をベースとして、Sequoia Capital、Andreessen Horowitzのような世界を代表するVCのような存在にNJを昇華させたいと思っています」

これまでの紹介会社とは、一線を画すビジョンを持っている同社。人材ビジネスのあり方の一つとして、この先業界にどのような影響を与えていくのか、注目していきたい。

株式会社ネットジンザイバンク
東京都港区赤坂2-23-1 アークヒルズフロントタワー RoP 705
Tel03-6893-0650 <http://www.netjinzaibank.jp>
2013年4月に設立したスタートアップ企業向けタレントエージェントの全面サポートを背景に、Yahoo!、GREE、GMO、ソフトバンクなどの管理職経験者を中心に計20名にて構成。Globis Capital Partnersをはじめとした国内外を代表するVCとの協業モデルを特徴とし、国内有力スタートアップ企業を中心に累計45名以上のCxO/役員を輩出。世界最大級起業家イベント「SLUSH ASIA」(2015・16年)2年連続協賛。日本版「ClunchBase」スタートアップ企業データベース「Cotobe」ローンチ(2016年4月)によりHRTech参入。2016年9月分社化を機にSequoia Capital、Andreessen Horowitzのような世界を代表するハイブリッドキャピタル+HRTechカンパニーへの展開を予定。